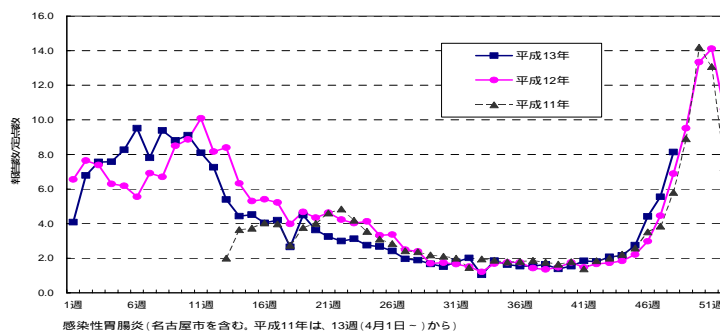


愛知県感染症情報

平成 13 年第 48 週 (11 月第 4 週)

(コメント)

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘は流行中で依然報告数が増加していますので注意してください。流行性耳下腺炎が豊橋、岡崎、豊川保健所管内で流行中です。インフルエンザの流行予測調査について、愛知県衛生研究所のホームページ内の衛研技術情報 2001 年 vol.25 No.4 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/20012504.pdf>) をご覧ください。



(定点の先生方からのコメント)

● 尾張西部地区

- ・ 病原性大腸菌感染者 (01 1 歳男、2 歳男、18 歳男 0153 2 歳女 025 11 歳女)。胃腸風邪が非常に多くインフルエンザ B もその中に含まれているものと思われます。

(尾西市 城後小児科)

- ・ カンピロバクター 5 歳女、病原性大腸菌 018 9 歳女、エロモナス 28 歳男、病原大腸菌 01 と 086 検出 7 歳女。上気道炎を伴う下痢症と頭痛を伴う嘔吐症が見られます。溶連菌が流行しています。

(犬山市 武内医院)

- ・ カンピロバクター 10 歳男。胃腸炎多発しています。水痘、伝染性紅斑も目立っています。

(岩倉市 なかよしこどもクリニック)

- ・ 流行性耳下腺炎、嘔吐を伴う感染性胃腸炎 (下痢少ない) が多い 1 週間でした。水痘、A 群溶連菌感染症も流行中です。

(江南市 みやぐちこどもクリニック)

- ・ マイコプラズマ 32 歳男

(師勝町 師勝クリニック)

- 尾張東部地区

- ・ マイコプラズマ感染（肺炎、8歳男、8歳女、12歳女、12歳女）が多く見られます。8歳にワクチン接種したひどい水痘（15歳）がありました。
（瀬戸市 津田こどもクリニック）
- ・ 溶連菌感染症、流行続いています。マイコプラズマ、幼児で目立ちました（入院例あり）。ヘルペス歯肉口内炎も散発です（学童、幼児）。今週は嘔吐を主訴に来院する症例が急に増加しました。
（尾張旭市 佐伯小児科医院）
- ・ 今週は4歳女児のマイコプラズマ肺炎と11ヶ月女児の急性細気管支炎がみられました。
（春日井市 かちがわ北病院）
- ・ 水痘とムンプスつづいています。感染性胃腸炎も増えました。
（春日井市 朝宮こどもクリニック）
- ・ ムンプス、水痘小流行。嘔吐主体の感冒性胃腸炎あり。
（小牧市 小牧市民病院）
- ・ マイコプラズマ肺炎 9歳女と5歳女
（小坂井町 医療法人宝美会総合青山病院）

- 西三河地区

- ・ ウイルス性腸炎多い。マイコプラズマ肺炎 3歳女
（豊田市 やふそ小児科）
- ・ 病原性大腸菌 018 1歳男、025 7ヶ月男
（岡崎市 花田こどもクリニック）
- ・ 病原性大腸菌 0126 VT(-) 6歳男、01 VT(-) 6歳女。025 VT(-) 1歳女
（岡崎市 にいのみ小児科）
- ・ 病原性大腸菌 018 8歳男
（岡崎市 川島小児科水野医院）
- ・ 嘔吐を主症状とする胃腸炎が目立ちます。
（碧南市 永井小児クリニック）
- ・ 先週に続いて溶連菌感染症と感染性胃腸炎が増加、水痘が散発
（西尾市 やすい小児科）
- ・ 今週も感染性胃腸炎、溶連菌感染症が目立ちました。
（西尾市 山岸クリニック）

- 東三河地区

- ・ ロタウイルス胃腸炎が散発。
(豊橋市 みやざわ小児科)
- ・ インフルエンザ(1歳男、5歳女、30歳代女)は家族。5歳女に
ディレクティジェン*施行し(+)。7歳女、8歳男、9歳女は同
一日受診。同じ小学校。
(豊橋市 富田小児科)

*ディレクティジェンFluA：A型インフルエンザウイルスの核蛋白を約15分間で検出する。

- ・ インフルエンザOIA*(+)熱性ケイレンあり 1歳男
(豊橋市 こどもの国大谷小児科)

*インフルエンザOIA：A・B型インフルエンザウイルスを同時に検出する。ただしA・B型の区別はできない。

- ・ 嘔吐、下痢、軽い発熱を伴う風邪が増加してきています。
(田原町 かわせ小児科)

(1~3類感染症の発生状況)

細菌性赤痢患者1名

瀬戸保健所から報告の10歳女。11/28発病、11/28初診、12/1診定。
菌型はゾンネ 相。

(全数把握の4類感染症の発生状況)

報告はありません。

第46週(11月12日~11月18日)の4類感染症の全国状況

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘は、年末のピークに向け患者報告数の増加が見られている。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、例年の同時期よりやや多くなっている。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は、山形県で6.7と多くなっている。感染性胃腸炎の定点当たり報告数が多くなっているのは、熊本県(13.9)、山口県(12.3)、福岡県(11.3)、鳥取県(10.3)などである。伝染性紅斑は非流行期であるが、過去5年間の同時期と比較すると定点当たり報告数がかかなり多くなっている。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、第19週よりここ10年間で最大の数が持続している。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数が多くなっているのは、石川県(6.2)、長野県(5.2)、沖縄県(5.0)、富山県(4.8)などである。流行性角結膜炎は宮崎県で定点当たり報告数5.3と多くなっている。(Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋)

